

日本社会心理学会会報

218号



発行 日本社会心理学会 <http://www.socialpsychology.jp/>
編集・制作 広報委員会(担当常任理事:宮本聡介)

2019年3月5日

日本社会心理学会第60回大会・開催日程

第60回大会準備委員長 西田 公昭



日本社会心理学会第60回大会は、2019年11月9日(土)・10日(日)に[立正大学 品川キャンパス](#)にて開催いたします。キャンパス内で大規模工事が実施されておりますため、開催日程の決定が遅れ、会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。立正大学品川キャンパスは、大崎・五反田の中間に位置し、新幹線駅や空港からのアクセスも大変良好です。大会準備委員会一同、多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。第1号通信は5月初旬の公開を予定しています。

(にしだ きみあき・立正大学)

第6回春の方法論セミナーのご案内など

学会活動担当常任理事 工藤恵理子

春の方法論セミナーも6回目を迎えることとなりました。第5回に引き続き、以下のように2つのセミナーを開催いたします。1つは「社会心理学者のための時系列分析入門」と題したセミナーです。例えば、昨年のセミナーで取り上げた経験サンプリングは、便利なアプリケーションの開発によって実施に関わるコストはかなり下がってきています。しかし、そこで得られるデータの分析は、ワンショットの実験研究や調査研究のデータ分析のようにはいかず、その点が一つのハードルとなっているかもしれません。また、とかく新たな分析手法を取り入れる際は「これで本当によいのだろうか」と不安を覚えることもあるように思います。本セミナーでは、時系列分析の全体像の解説から入り、続いて各種分析手法を具体的な事例を用いて解説していただきます。

もう1つのセミナーは「社会心理学者のための VR(バーチャルリアリティ)入門」で、近年さまざまな場面での活用が進んでいる VR を取り上げます。研究の対象としても、研究の道具としてもたいへん魅力がありますが、どのような機材をそろえればよいのか、研究で使用するにはどのようなスキルが必要なのか、わからないことも多くあるように思います。VR でどのような研究ができるのか、そのためには何が必要なのか、解説していただきます。

2つのセミナーの詳細は[学会ホームページ](#)およびそれぞれのセミナーのサイト(下記参照)をご覧ください。また、今回は新たな試みとして事前に質問を募集いたします。質問はそれぞれのセミナーのサイトで受けつけております。いただいた質問は講師の先生に事前にご覧いただけます。時系列分析、あるいは VR について「この点が知りたい」ということをお知らせいただくとたいへんありがたく存じます。もちろん当日の質問も大歓迎です。

日時 2019年3月21日(木・祝) 13:00~17:00 (12:30 開場予定) ※2つのセミナーとも 13:00 開始です

会場 明治学院大学白金キャンパス 2号館2階 ※[アクセスマップ](#) ※[キャンパスマップ](#)

参加費 無料(事前予約不要・会員以外の参加も可)

社会心理学者のための時系列分析入門

[小森 政嗣](#) 先生(大阪電気通信大学) 時系列データの基礎と時系列分析マップの紹介 目的別時系列データ解析手法の紹介
[竹林 由武](#) 先生(福島県立医科大学) 時系列データの Granger 因果
[藤原 健](#) 先生(大阪経済大学) 対人コミュニケーション研究における周波数解析

社会心理学者のためのVR(バーチャルリアリティ)入門

北崎 充晃 先生(豊橋技術科学大学) バーチャルリアリティ学序論
 濱田 健夫 先生(東京大学) バーチャルリアリティの現実適用
 近藤 亮太 先生(豊橋技術科学大学) バーチャルリアリティを用いた実験開発

「社会心理学者のための時系列分析入門」セミナーのサイト → <https://sites.google.com/view/jssp2019seminar-timeseries/>

「社会心理学者のためのVR入門」セミナーのサイト → <https://sites.google.com/view/jssp2019seminar-vr/>

「社会心理学者のための」と銘打っておりますが、社会心理学者が利用することを念頭に内容を検討したという意味で会員限定ではありません。会員以外の参加も無料ですので、周囲にご関心のある方がいらっしゃいましたら、ご紹介いただけると幸いです。

年度末のお忙しい時期ですが、大勢の方のご参加をお待ちしております。

セミナーの詳しい情報は、学会ホームページならびに、それぞれのセミナーのサイトをご覧ください。セミナーのサイトでは資料のダウンロードなども行う計画です。更新情報は学会メールニュースを通じてもお知らせする予定です。

今回のセミナーに関しまして、一つご注意いただきたい点があります。春の方法論セミナーはこれまでインターネットを利用した中継を行って参りました。今回も配信を予定しておりますが、諸々の事情から中継は時系列分析入門のセミナーのみにさせていただきます。また、録画につきましては、公開できない場合、あるいは部分的な公開になる場合もありますので、あらかじめご承知おき下さい。

昨年のセミナーにつきましては、「R/RStudio 入門」と「経験サンプリング A to Z」の両セミナーとも講師の先生がたのご了承をいただき、録画映像ならびに当日の投影スライドを公開しております。[学会ホームページの開催記録のページ](#)をご参照下さい。ご活用いただけますと幸いです。

(くどうえりこ・東京女子大学)

第30期役員選挙のご報告

結果報告

第30期選挙管理委員長 齋藤 和志

第30期の役員選挙は、第59回大会総会で承認いただきました役員選挙規程に基づき実施いたしました。また、先回に引き続き投票方法はオンライン投票となりました。投票期間は2018年11月1日から21日までとし、期間中、投票を促すメールを3回お送りしました。役員選挙の開票に際しては、選挙管理委員4名(齋藤和志、西村太志、小川一美、松本友一郎)と事務局担当(古川佳奈)が集計結果を確認し、当選者、次点者、次々点者を決定いたしました。いずれの選挙におきましても、同数の得票に関しては、複数の選挙管理委員により抽選を行いました。以下、開票結果をご報告いたします。

役員選挙における有権者数は1,342、投票総数は358、投票率は26.7%となりました。投票率は第26期が25.7%、第27期が25.6%、第28期が23.4%、第29期が23.3%でしたので、漸減傾向が継続していたなか、わずかながらの回復を示しました。区分ごとの得票数、投票率は、表1をご覧ください。開票は2018年12月1日に、会長、全国区理事、地方区理事、監事にわけて行いました。それぞれの区分での開票時点または最終時点での当選、次点、次々点までの結果は、表2から表8をご覧ください。得票が同数の場合、重複しての当選の場合などについては、役員選挙規程に則って処理しました。開票終了後、当選者に就任の諾否を尋ねたところ、1名の辞退がありましたが、次点を含めてすべての当選者から就任の承諾を得ました。

また、今回の会長選挙の結果、現理事に欠員が生じたため、残り任期2年の理事1名の補充手続きをとりました。第29期の全国区理事の選挙結果を確認し、次点の安藤清志氏に就任の諾否をお尋ねしたところ辞退されました。次の得票数の会員を確認したところ、今期当選の大坪庸介氏、竹村和久氏であり、続く候補3名が同得票数であったため、今期選挙管理委員会による抽選を行いました。その結果、渡邊芳之氏が候補となりました。諾否をお尋ねし、就任の承諾を得て、2018年12月11日にすべての役員(会長、理事、監事)が確定しました。

第30期の会長に当選した唐沢かおり氏から、編集担当常任理事として村本由紀子氏、事務局担当常任理事として宮本聡介氏の指名がありました。2018年12月17日から25日に理事による信任投票を実施しました。すべての投票が12月24日以前に終了したため、開票は2018年12月25日に行いました。その結果、不信任0票、棄権1票、白票2票、その他すべて信任票となり、2氏とも信任されました。

残り4名の常任理事を選出するために、2018年12月27日から2019年1月9日まで理事による互選を実施しました。2名が期限内の投票に遅れたため、その票は無効としました。開票は1月11日に行い、その結果に基づき、当選者に就任の諾否を尋ねたところ、すべての当選者から承諾を得ました。最終的に1月17日をもって、藤島喜嗣氏、金政祐司氏、竹村和久氏、岡隆氏の4名の常任理事を確定しました(表9)。

以上で、第30期の役員が全員確定したことをご報告いたします。なお、その後に決定された新役員の役割分担については表10をご覧ください。

選挙管理委員会からのコメント

先に、投票率26.7%と「わずかながらの回復」と書きましたが、第29期の有権者数のままでとすれば25.3%であり、この結果の背景には有権者の減少があります。したがって、より具体的な投票率の向上を目指す方策を考える必要があります。また、第29期の選挙管理委員会からの申し送り事項として、特に常任理事の辞退の問題が指摘されていました。今回は、その対応策として、諾否確認のメールに有権者の投票に基づく結果であることを強調し、辞退する場合には理由の記述を求めるものになりました。今回の理事辞退の理由は選挙管理委員会としても、やむを得ないものと理解できました。また、問題の根幹である常任理事の就任の諾否についても、今回は辞退者がいませんでした。しかしながら、このような結果が継続すると予測する根拠は見当たりません。互選の結果による辞退者を出さないということだけでなく、会長の執行部運営をより機動的に行うためにも、常任理事における会長指名理事枠を増やし、互選枠を減らす方向性を提案したいと思います。会員の直接投票で選出された会長と理事であることを考えても、有効な方策と考えられますので、ご検討いただければと思います。

(文責: 斎藤 和志)

表1 第30期役員選挙投票数

区分	有権者数	投票者数	投票率
会長	1342	358	26.7%
全国区理事	1342	358	26.7%
地方区理事(北海道・東北)	91	29	31.9%
地方区理事(関東)	628	150	23.9%
地方区理事(中部・近畿)	460	137	29.8%
地方区理事(中国・四国・九州・沖縄)	154	41	26.6%
監事	1342	358	26.7%
海外	9	1	11.1%

表2 第30期役員選挙開票結果(会長)

氏名	得票数	順位	当選者
唐沢 かおり	169	1	○
浦 光博	30	2	次点
松井 豊	19	3	次々点
小計	218		
次々点未満	127		
白票	13		
合計	358		

表3 第30期役員選挙開票結果(全国区理事)

氏名	得票数	順位	開票結果	最終結果
村本 由紀子	97	1	○	○
竹村 和久	94	2	○	○
北村 英哉	71	3	○	○
西田 公昭	62	4	○	○
三浦 麻子	20	5	○	○
相川 充	19	6	○	辞退
大坪 庸介	15	7	○	○
池田 謙一	13	8	次点	○
安藤 清志	12	9	次々点	次点
阿部 晋吾	10	10		次々点
小計	413			
次々点未満	261			
白票	42			
合計	716			

注: 次々点は抽選による。

表4 第30期役員選挙開票結果

(地方区理事:北海道・東北)

氏名	得票数	順位	当選者
大淵 憲一	5	1	○
辻本 昌弘	5	1	次点
福野 光輝	4	3	次々点
小計	14		
次々点未満	14		
白票	1		
合計	29		

注:当選、次点は抽選による。

表5 第30期役員選挙開票結果

(地方区理事:関東)

氏名	得票数	順位	当選者
藤島 喜嗣	62	1	○
新谷 優	53	2	○
北村 英哉	16	3	全国区で当選
平石 界	10	4	○
相川 充	8	5	全国区で当選(辞退)
外山 みどり	8	5	次点
安藤 清志	8	5	次々点
小計	165		
次々点未満	195		
白票	90		
合計	450		

注:次点、次々点は抽選による。

表6 第30期役員選挙開票結果

(地方区理事:中部・近畿)

氏名	得票数	順位	当選者
金政 祐司	44	1	○
小林 知博	40	2	○
橋本 剛	23	3	次点
元吉 忠寛	23	3	次々点
小計	130		
次々点未満	127		
白票	17		
合計	274		

注:次点、次々点は抽選による。

表7 第30期役員選挙開票結果
(地方区理事:中国・四国・九州・沖縄)

氏名	得票数	順位	当選者
相馬 敏彦	4	1	○
植村 善太郎	3	2	次点
中島 健一郎	3	2	次々点
小計	10		
次々点未満	26		
白票	5		
合計	41		

注:次点、次々点は抽選による。

表8 第30期役員選挙開票結果(監事)

氏名	得票数	順位	当選者
山口 裕幸	151	1	○
相川 充	10	2	全国区に当選(辞退)
外山 みどり	6	3	次点
太田 仁	6	3	次々点
小計	173		
次々点未満	147		
白票	38		
合計	358		

注:次点、次々点は抽選による。

表9 第30期役員選挙開票結果(常任理事)

氏名	得票数	順位	当選者
藤島 喜嗣	15	1	○
金政 祐司	13	2	○
竹村 和久	11	3	○
岡 隆	7	4	○
北村 英哉	4	5	次点
三浦 麻子	3	6	次々点

注:次々点は抽選による。

表10 第29期、第30期常任理事役割分担

役職名	新(第30期)	旧(第29期)
会長	唐沢 かおり	浦 光博
事務局担当	宮本 聡介	西村 太志
編集担当	村本 由紀子	岡 隆
研究支援担当	岡 隆	唐沢 かおり
学会活動担当	金政 祐司	工藤 恵理子
広報担当	藤島 喜嗣	宮本 聡介
大会運営担当	竹村 和久	坂田 桐子

2018年度 日本社会心理学会「若手研究者奨励賞」候補者の選考経過と 選考結果

「若手研究者奨励賞」選考委員長 唐沢かおり

本年度の「若手研究者奨励賞」受賞者の選考経過と選考結果をご報告申し上げます。本年度は28件の応募があり、4名の選考委員による厳正な審査の結果、以下の6名を受賞者と決定いたしました。選考委員の先生方に各自、講評を書きいただきましたので、あわせてそちらもご覧ください。

[選考過程]

5月30日に、広報担当の宮本先生に依頼して、今年度の募集要項と応募用紙を学会のHPにアップするとともに、募集開始をメールニュースで会員に告知をした。締め切りは例年通り9月30日とした。

■選考委員(敬称略)

選考委員は応募者の指導教員、共同研究者ではないことを条件に理事から2名、一般会員から2名を選考委員として依頼し、下記の4氏について会長と常任理事会の承認を得た。

理事より:堀毛一也(東洋大学)、池上知子(大阪市立大学)

一般会員より:新谷優(法政大学)、村上史朗(奈良大学)

■第1次審査

応募総数28件につき、第1次審査を行った。審査方法については、従来の手順を踏襲し、選考委員はお互いに匿名としたうえで、個別に各応募に対して、A(優れている)、B(普通)、C(やや劣っている)を付与することで行った。なお、A評価は5本以内とした。選考委員長は、指導学生からの応募があったため、審査には加わらなかった。

■第2次審査

第1次審査結果に対して、A評価は40点、B評価は10点、C評価は5点をそれぞれ与えて得点化し、4名の選考委員の合計点を算出した。得点が上位の10名を第2次審査の対象として、選考委員間でメール審議を行った。

メール審議では、研究の学術的価値、予測される知見の新奇性などについての意見が提出され、意見交換の結果、最終的な評価において100点以上を得た上位6名を受賞対象とすることで合意した。

[選考結果]

■受賞者(五十音順)

伊藤 篤希・京都大学博士課程1年・環境への適応戦略としてのヒエラルキーの実態の解明

鈴木 啓太・東京大学博士課程1年・暗黙理論の文化差生成・維持メカニズムの検討:課題変更可能性に着目して

ターン 有加里 ジェシカ・東京大学修士課程1年・「あなたがやるなら私はやらない」か「あなたがやるなら私もやる」か—ボランティアのジレンマにおける他者の協力意図と2種類の公正感受性—

早川 美歩・名古屋大学修士課程1年・他者の身体を纏えば心も染まるか:VRによる身体所有感の喚起が利他行動に及ぼす影響

本間 祥吾・北海道大学修士課程1年・環境変動性に対する適応としての心と社会の共進化:進化ゲーム・シミュレーションを用いた理論的検討

横山 実紀・北海道大学修士課程2年・公共的な合意形成場面における無知のヴェール下での議論の有効性について

(からさわかおり・東京大学)

会員異動(2018年11月1日~2019年2月28日)

入会

《正会員》

・一般

玉利 麻紀(高知県立大学社会福祉学部)、八杉 淳一(オリックス生命保険株式会社スペシャリスト)、吉田 武史(吉田法律事務所代表(行政書士・薬剤師))

・大学院生

浅野 良成(東京大学大学院法学政治学研究科)、岩谷 祥太郎(立命館大学大学院人間科学研究科)、浦山 郁(関西大学大学院社会安全研究科)、小楠 なつき(北海道大学大学院文学研究科)、テイラー パメラ(京都大学大学院人間環境科学研究科)、劉 夷(東京大学大学院学際情報学府 文化・人間情報学専攻)

《準会員》

幅 勇介(東京大学文学部行動文化学科社会心理学専修課程)

退会(2018年11月1日~2019年2月28日)

石丸 彩香、長田 雅喜(物故)、小西 信義、佐藤 有紀

所属変更

角田 勝也((株)IDIインフラストラクチャーズ)、伊藤 健彦(玉川大学)、白砂 優希((株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所 研究員)

『社会心理学研究』掲載(予定)論文

第34巻第3号(2019年3月刊行予定)

今在 慶一朗 手続き的公正の対人的要因に対する注意の調整効果の実験:原子力発電所再稼働に関する首相のスピーチに対する印象形成
 荒川 歩・菅原 郁夫 裁判員裁判を想定したフォーカスグループの効果の検証
 中村 早希・三浦 麻子 2者から異なる方向に説得される状況での被説得者の認知資源と態度変容プロセスの関連の検討
 渡邊 寛・城間 益里 NHK連続テレビ小説に表れる男性役割:時代的な変遷、登場人物の年代、女性主人公との関係性による差異
 柴田 侑秀・中谷内 一也 主観的被害確率が犯罪不安に与える影響:階層的クラスター分析による罪種分類に基づいて

編集後記

広報担当常任理事をお引き受けしてから、はや2年が過ぎようとしています。おそらく、私が責任編集する会報はこれで最後になると思います。会報編集にあたり、原稿執筆依頼に快く応じてくださった学会員の皆さまに心より御礼申し上げます。また、広報委員の尾崎由佳先生、縄田健悟先生、武田美亜先生、藤桂先生には、メールニュース発行作業、論文ニュース作成、その他、本学会の広報活動に関わるあらゆるところでご尽力いただきました。ここに改めて感謝申し上げます。武田先生、藤先生にはもうあと2年、委員をご継続いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。本会報の選挙結果にもありますように、唐沢会長の新体制では、藤島喜嗣先生に広報担当常任理事をお引き受けいただくことになっております。藤島先生、どうぞよろしくお願いいたします。また、私事ではありますが、4月からは事務局担当常任理事をお引き受けすることになりました。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

(宮本聡介・広報担当常任理事)